

推薦

我福井藩より景岳橋本左内先生の如き英傑を出したるは、我等のみに誇りとする所なり。

先生の名著『啓發録』を一讀し、將た先生の勤王報國の一大精神に感激して、奮然蹴起したるもの、其の數實に枚舉に遑あらず、現に岡田海軍大臣、加藤海軍軍事參議官の如きも、先生の感化を受けて苦學黽勉せられたる俊髦に非ずや、又其の令弟醫學博士子爵橋本綱常大人は、我國醫學界の大御所として、今尙我等の耳目に新たなる所なり。

這回足羽山上に英姿颯爽たる景岳先生の銅像新設せらるゝ當り、之を永く記念すべく山田秋甫君の『橋本左内言行録』成る、即先生の高風を欽仰しつゝ、本書を繙くは、一層愉快なるを覺ゆ、況や綱常大人の言行を併せ録するに於てをや。今、本書を社會に推薦すると同時に、福井市内の各學校、圖書館等に頒ち、以て育英の資料に供す、希くは當局の各位は、本書を最も有意義に利用せられんことを

昭和七年小田刈月

醫學博士 柳 下 彦 雄

推薦

橋本左内先生の偉徳については、既に小學時代、師より聽講せし一端と雖、深く腦裡に刻みて忘れず、今尙事ある毎に欽慕の念を高め、進んでは先生平素の生活を細大となく知悉し得、以て其の人格に心行くばかり浸りたしとは、年來の渴望なりしも、知るに識なき吾人は、痛く之を遺憾とせし所なり。

適々我福井縣に於ける郷土史研究界の權威山田秋甫君が、這般先生の言行録を編纂して世に公にせらるゝと聞き、予は覺えず快哉を叫びて、滿腔の歡喜と敬意を捧げたり。

君は夙に先生の高德に私淑し、毎年左内先生の忌辰には、自から景岳祭を行ひて遺墨を展觀し、又多年の研究にかゝる、先生の實歴逸話を人に聽かしむるを例とせり。是に於て本女學校職員生徒も亦之が祭典に參列して、偉大なる精神教育に浴し來りしが、君は本春更に若越郷賢祠を創建し、左内先生の小銅像を始め、福井縣出身先賢の靈を祀られ、景岳祭日を郷賢祭日に變更の結果、自今學校にては自然郷賢祭に參列することゝなれり、要するに左内先生と本校は、斯かる密接なる、因縁あるを以て、本書を校友會事業として刊行し、廣く思想界に貢獻したき熱望なりしも、本校の創設日尙淺く、會員亦少數なれば、目的達成の至難なるを思ひ、遂に會員組織の方法を以て、此の事業の完成

を期することゝせり。

本書は即先生の言行録と稱すと雖、一面に於ては其の家系を説き、父母を叙し、兄弟子女に言及す、苟くも人物を評論し、又は史傳を記述し、以て其の真面目を把握せんと欲せば、先づ家系と、家庭を知らざるべからず、既に之を知悉せば、その周囲の最も關係深厚なりし親戚、師友の所見を聞かざるを得ず、本書は此意味に於て橋本氏の家乗と稱するも、可なりと信ず、真に我國民精神涵養の好龜鑑と謂ふべし、又本書の冠頭を飾れる諸大家の題辭、及び序文も、誠に子弟の教材として尊重すべきものなり。

若し夫れ讀者諸君が本書に依りて、一人にても多く感化を受け、發憤興起して、盡忠報國の忱を致さば、「偉人の傳は偉人を作る」の箴言も亦空しからず、特に本書の必讀を各家庭に勧め、以て日常青年子女の教育資料に供せられむ事を切望して止まざるなり。

昭和七年九月上浣

福井縣丹生實科高等女學校校長
兼福井縣丹生郡朝日高等小學校長

今川加七

昭和七年九月二十五日印刷
昭和七年九月三十日發行

定價 金貳圓五拾錢

送料 金拾五錢

著者 福井縣丹生郡朝日村 山田 秋甫

印刷者 福井縣鯖江町上深江一〇八番地 齋藤 淺

印刷所 福井縣鯖江町上深江一〇八番地 齋藤 印刷所

無斷轉載嚴禁

發行所 橋本左内言行錄刊行會

福井縣丹生郡朝日村天王
第三十號一番地ノ一

三三二二四 愚菴居士

63

祇願三軒木
規則書の指し
のり手

十一

610
133

